

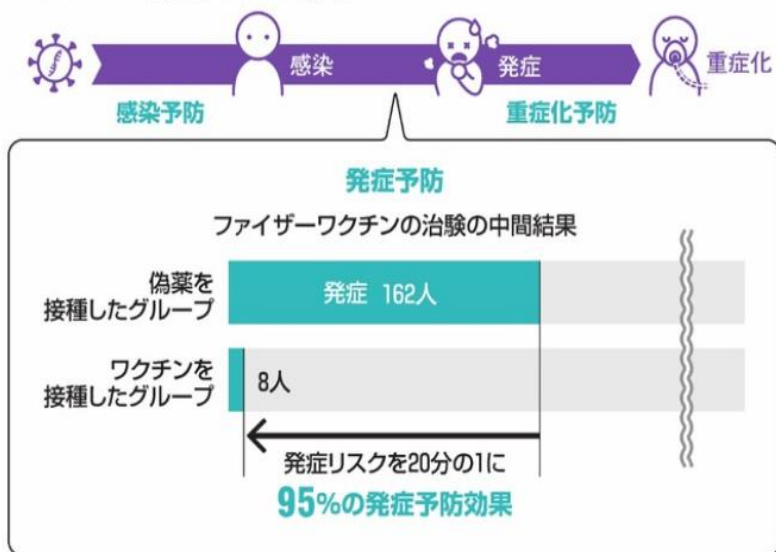
新型コロナウイルス感染症予防ワクチン接種が医療従事者に続き高齢者へ開始されました。3度の緊急事態宣言で感染拡大の歯止め効かない中、ようやく感染抑止へ活路が開かれました。

そこで、16歳以上の一般（スポーツ選手含む）の接種開始を前にワクチン接種の概要について、4月4日付け朝日新聞「ワクチンどう接種」の図表等を用い、医療従事者、65歳以上の高齢者から始まったワクチン接種の現状を交え示します。

ーワクチン接種の概要ー

ワクチンに期待される効果

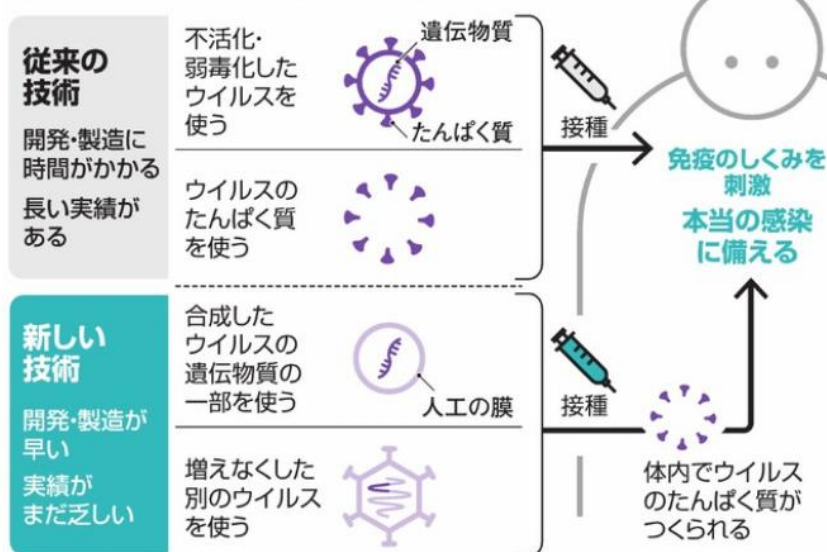
文字を表示する



・ワクチンには新しい技術による遺伝子の一部（m-RNA）を使用。

新型コロナワクチンの種類としくみ

文字を表示する



ワクチン接種の安全性

文字を表示する

接種後の主な症状

米国で接種後7日目までにアプリを通じて報告された症状の割合
2020年12月14日～2021年1月13日。アプリ登録者:160万2065人



アナフィラキシーの頻度 (接種100万回あたり)

複数の臓器でアレルギー反応。命に関わる場合も。治療薬があり、応急処置できる

インフルエンザ
不活化ワクチン

1.4
件

肺炎球菌
ワクチン

2.5
件

新型コロナワクチン
(ファイザー製とモデルナ製)

4.5
件

ほうしん
帯状疱疹の
生ワクチン

9.6
件

いずれも、CDCの報告 (<http://dx.doi.org/10.15585/mmwr.mm7008e3>) から

・5月1日朝日デジタル版より接種スケジュール

ワクチン接種のスケジュール

厚生労働省
などによる

① 医療従事者 約470万人

2月17日 接種開始
4月28日時点
2回接種
約99万人 (21%)

② 高齢者 約3600万人

4月12日 接種開始
4月29日時点
1回接種
約14万人 (0.4%)
2回接種 0人

- 特定の持病がある人 約1030万人
 - 高齢者施設などの職員 約200万人
 - 60～64歳 約750万人
 - 16歳以上のその他の人 約5000万人
- (時期未定) 接種後の対象

ワクチン接種の流れ

文字を表示する



1 市区町村からクーポン(接種券)が届く



2 予約

- 自治体が時期を示す
- 厚生労働省のサイトを閲覧して接種会場を探し電話予約、または市区町村のコールセンターや窓口で電話して予約



3 接種

- 会場は近くの体育館や診療所
- 接種券と身分証明書を持参
- 予診票を記入
- 1回目の接種後に2回目を予約

接種券、接種済証は
大切に保管する

・4月3日付け朝日デジタル版よりワクチン接種の主な副反応

ワクチン接種の主な副反応

森内浩幸・長崎大教授への取材などによる

アナフィラキシー

重いアレルギー反応。
症状を抑える薬が
接種会場に用意されている

筋肉痛や体のだるさ

ウイルスへの抗体を体が作るための
準備段階。2、3日でおさまる

血管迷走神経反射

注射時のストレスで失神
不安が連鎖して「集団発生」も

血管迷走神経反射になりやすいのは？

- 思春期でやせ形の女性
- 注射で気分が悪くなったことがある
- 接種を不安に思っている

どうすれば防げる？

- ベッドなどで
寝転がりながら注射する
- フラットしたらすぐに
しゃがみ込む



グラフィック・田中和

ワクチン接種の優先順位にかかわる基礎疾患

文字を表示する

1 以下の病気や状態で、通院・入院している人

- 慢性の、呼吸器の病気、心臓病(高血圧を含む)、腎臓病、肝臓病(肝硬変など)
- インスリンや飲み薬で治療中の糖尿病または他の病気を併発している糖尿病
- 血液の病気(ただし、鉄欠乏性貧血を除く)
- 免疫の機能が低下する病気(治療中のがんなどを含む)
- ステロイドなど、免疫の機能を低下させる治療を受けている
- 免疫の異常に伴う神経疾患や神経筋疾患
- 神経疾患や神経筋疾患が原因で身体の機能が衰えた状態(呼吸障害など)
- 染色体異常 ● 睡眠時無呼吸症候群
- 重症心身障害(重い体の不自由と重い知的障害が重なった状態)
- 重い精神疾患(治療のため通院など)や、知的障害(療育手帳を持っている場合)

2 肥満(BMIが30以上)の人

$$\text{体格指数 (BMI)} = \frac{\text{体重(キログラム)}}{\text{身長(メートル)}^2}$$

例えば、身長170センチなら体重87キログラムほどで、BMIは30を超える

ワクチン接種ができない人や注意が必要な人

文字を表示する

厚生労働省による

接種を受けられない人

- 37.5度以上の発熱がある人
- 重い急性疾患にかかっている人
- ワクチンの成分に対してアナフィラキシーを起こしたことがある人 など

注意が必要な人

- 過去に免疫不全の診断を受けた人や先天性の免疫不全症の近親者がいる人
- 心臓、腎臓、肝臓の疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患がある人
- 過去に予防接種後2日以内にアレルギー症状が出た人
- ワクチンの成分に対してアレルギー反応が起こる恐れがある人

※抗凝固薬を使っている人など血液が固まりにくい人は、接種後の出血に注意

※妊娠中、妊娠の可能性のある人は接種のメリットとデメリットをよく検討して判断

Q13 アナフィラキシーとはどのようなものですか？

A アナフィラキシーは、薬や食物が身体に入ってから、短時間で見られる全身性のアレルギー反応です。かゆみ・じんましん、息苦しさ、腹痛など2つ以上の臓器にわたって症状が現れます。その中でも急激な血圧低下や意識障害を伴う場合を「アナフィラキシーショック」と呼びます。これらはすぐに治療する必要があります。

Q14 アナフィラキシーが起こるとすれば、接種後いつでしょうか？

A 米国の報告では、アナフィラキシーが起こった方の90%が接種後30分以内に症状が現れていました。接種を行う施設では、適切な対応が取れる体制を整えています。

Q15 接種施設を出た後に体調変化に気付いたら誰に相談したらよいですか？

A 安静にして、接種を受けた医療機関または都道府県や市区町村からの案内に記載された相談窓口にご連絡ください。

私たち医師および医療従事者は皆さんが新型コロナウイルス感染症の予防接種を安心・安全に受けられるよう努めます。

医師会

お問合せ窓口



新型コロナウイルス感染症の 予防接種を 安心して受けるために

ワクチンについてわからないことや、高齢者や基礎疾患をお持ちなど、接種に不安がある方は、かかりつけ医や地域の医師会にぜひご相談ください。巻末にお問合せ窓口が記載されています。



2021年3月25日

ワクチン接種についての様々な疑問にお答えします



Q1 なぜワクチンを接種するのですか？

A ワクチンの接種により、症状が出ることを防ぎ、重症化するのを予防できることが明らかになっています。最近の研究では、感染自体を防げる可能性も示されています。

Q2 ワクチンを接種した方がよいですか？

A できるだけ多くの方が予防接種することで、感染の拡大を防ぐことができます。予防接種には、「個人を守ること」と「社会を守ること」の二つの役割があります。

日本医師会
Japan Medical Association

Q3 接種するワクチンはどのくらい効き目(効果)がありますか？

A 3週間の間隔で2回接種した場合、2回目の接種から7日目以降において、症状が出ることを防ぐ効果は約95%でした。ワクチンを定められた方法(間隔、回数)で接種した場合の効果は科学的に明らかです。

Q4 どのように接種するのですか？

A 上腕の筋肉に注射します。また「コモナティ筋注」(ファイザー社)の場合は3週間の間隔で2回行います。

Q5 なぜ新型コロナウイルスワクチンは筋肉注射なのですか？

A 筋肉注射の方がワクチンの成分が素早く吸収されます。筋肉の中は血流が豊富で免疫に関わる細胞も多く存在するため、ワクチンによる免疫を獲得しやすいのです。

Q6 筋肉注射は痛みありませんか？

A 痛みの感じ方には個人差があります。ワクチンに含まれる成分によっても異なります。注射したところの腫れや痛みが、接種後しばらく経ってから出ることもあります。

Q7 ワクチンの注射で注意することはありますか？

A 服用している薬の作用によって出血しやすくなっている方や、出血しやすい病気の方は、注意が必要です。薬を服用中の方や治療中の方は、前もってかかりつけ医に確認をしてください。そして、必ず接種前に医師や看護師等に伝えてください。



Q8 妊娠中や授乳中の方はワクチンを接種した方がよいですか？

A ワクチン接種対象から除外されてはいませんが、接種する前に必ずかかりつけ医と相談してください。

Q9 子供も接種できますか？

A 現在承認されている「コモナティ筋注」(ファイザー社)の対象は16歳以上の方です。小児に対する接種は、今後検討される見通しです。

Q10 アレルギーがある場合、ワクチン接種して大丈夫でしょうか？

A アレルギーの原因は様々です。特定の原因が疑われる場合は、ワクチンに含まれる成分との関係について、事前に医師に相談してください。ワクチンに含まれる成分以外に対するアレルギーの場合、接種は可能です。

Q11 重度のアレルギーの既往歴がある場合はどうなりますか？

A まず、かかりつけ医に相談してください。また、接種する医師等が注意深く観察し、必要に応じて速やかに対応を行えるよう、接種前に必ず医師や看護師等に伝えてください。

Q12 接種後の体調変化が心配です。

A 接種後15~30分程度は接種施設で様子を見ます。接種直後に、めまい・吐き気・血圧低下などが見られることがあります。また接種した翌日になって、注射した部位の痛み・腫れ、筋肉や関節の痛み、頭痛、疲労、発熱などが見られることがあります。これらは通常、数日以内におさまります。気になる体調変化は、接種を受けた医療機関や自治体の窓口にご相談ください。



後記

ワクチンの接種が完了してもマスク・手洗いはしばらく必要となるでしょう。ただ、肩抱き合い、大きな声を出してスポーツに参加できる日常が目前に来ているのは確かです。それまでは、現状の感染対策を大変ですが続けましょう。

令和3年5月吉日

JSPO 公認スポーツドクター 安永 昭